

新潟大学理学部首都圏同窓会のあゆみ

2014年6月

新潟大学理学部首都圏同窓会

目 次

発刊にあたって	1
あゆみに寄せて	3
新潟大学理学部首都圏同窓会 発足前後の様子メモ	3
「首都圏同窓会の歩み」に寄せて	8
サイエンスセミナーの楽しみ	10
同窓会の出会いと思い	12
サイエンスセミナーに寄せて	13
新潟大学理学部首都圏同窓会の思い出	15
背番号、理35-9	17
箱根駅伝他 学生スポーツ観戦考	19
新潟大学の他同窓会等団体との交流について	21
理学部首都圏同窓会の近況	24
首都圏同窓会と私	26
会計から見た同窓会の歩み	27
本同窓会の略歴	29
サイエンスセミナーの略歴	31
あとがき	35

発刊にあたって

昭和 32 年 化学科卒 小川 勝

理学部首都圏同窓会は、創設されてから 29 年を経過しました。創設準備から関わってこれ、平成 15 年から 5 年間会長を務められた早福氏が当時「細々ながらも随分長く続いているな」とよく独り言の様に呟いていたのを思い出します。

理学部首都圏同窓会の設立を思うとき、新潟大学の全学部を対象にした新潟大学首都圏同窓会との関係を忘れることは出来ません。

新潟大学首都圏同窓会は、1973（昭和 48）年に創設されました。その会則第七条には、年一回総会を開催する旨規定されていました。

第一回総会は設立発起人が担当されました。

第二回以降の総会は設立準備会に係った各学部（人文学部・工学部・理学部・医学部・農学部）が、順次幹事学部となって持ち回りで担当し、運営されてきました。

工学部・医学部・農学部の各学部は、既に、新潟大学という総合大学となる前の前身校の同窓会があつて、幹事学部となった総会には、その同窓会を基盤として担当年度の総会を運営し、総会を盛り上げていました。

理学部が幹事学部となった場合を考えて、首都圏在住の理学部同窓生だけで、学科の垣根を越えた、理学部全体を対象とする理学部首都圏同窓会を創ろうという機運が起きてきました。

そこで、首都圏同窓会の創設で活躍された第一～三回卒の先輩諸氏が中心になって、ご苦労され、様々のことがあったようですが、新潟大学首都圏同窓会発足から 10 年を超えて、ようやく、理学部首都圏同窓会設立の骨子が整ったのでした。

昭和 61（1986）年 6 月 27 日・学士会館（千代田区神田錦町）で開かれた総会において新潟大学理学部首都圏同窓会が発足し、これが第 1 回総会とされました。この総会には 180 名を超える同窓生等が出席しました。

この総会に、同窓会会則（案）が上程・承認され、同日より施行されました。承認された会則に基づき、役員が選出され、志賀浩二氏（昭和 28 年数学科卒）が会長に推挙され、就任されました。

第 1 回総会の出席者 182 名の内訳は次のようでした。

数学科 24 名、物理学科 75 名、化学科 48 名、生物学科 26 名、地質鉱物学科（当時の名

称) 9名。

因みに、第1回総会には、理学部化学科同窓会長の渡辺昌五氏(第一回生)が来賓として出席され、「各学科に分離された同窓会も近く統合されて、再び新潟大学理学部同窓会として発足する予定である」旨を報告されたことを覚えています。

私は、新潟大学首都圏同窓会発足・運営がこの理学部首都圏同窓会を生み、この理学部首都圏同窓会の誕生が、一旦は各学科に解体した同窓会を再び新潟大学理学部同窓会にこぎつけた原動力になったのではないかと思います。

それにつけても、新潟大学首都圏同窓会の設立に努力され、それを維持・継続されてきた先輩や同窓性の方々に感謝せざるを得ません。

なお、新潟大学首都圏同窓会は、今年で43回目の総会を迎えます。

あゆみに寄せて

新潟大学理学部首都圏同窓会 発足前後の様子メモ

昭和28年 物理学科卒 加藤義雄

第13回新潟大学首都圏同窓会 於 東京商工会議所ビル8階 東商スカイルーム

昭和59年11月30日 18時-20時

理学部担当 担当者 丹呉建介(数 S28)、小根山一郎(化 S28)、丸山幸雄(化 S30)、
白井和夫(化 S28)

理学部出席者 数学科 : 志賀浩二(S28)、丹呉建介(S28)

物理学科: 遠藤成章(S28)、木村初男(S28)、加藤義雄(S28)

相馬 崇(S32)、多々良学(S46)

化学科 : 井上(高野)幸子(S28)、白井和夫(S28)、

伊藤良夫(S28)、小根山一郎(S28)、鈴木高明(S28)

杉山邦一(S28)、丸山幸雄(S28)

等々

新潟大学首都圏納涼パーティ 於 東天紅上野広小路店8階 エース

昭和60年7月20日 17時-

理学部出席者 : 丹呉建介(数 S28)、白井和夫(化 S28)、加藤義雄(物 S28)

丸山幸雄(化 S30)、佐藤昭一(物 S30)、佐藤博夫(物 S33)

多々良学(物 S46)

丹呉、白井、丸山、加藤らのあいだで理学部首都圏同窓会を作る話がでる。

さしあたって各学科の名簿を作成すること。

目途として来年夏頃に同窓会を発足する。

連絡会議をできるだけ頻繁に行うこととする。

昭和60年7月23日 新大教養部 岡崎さんに物理学科卒業生名簿を依頼。

横田先生退官のさいの名簿を入手。

昭和60年8月10日 遠藤成章、佐藤昭一、野原全功と自宅にて首都圏卒業生名簿作成相

談。卒業年度毎に世話役を決め、各年度の卒業名簿作成を依頼することとする。

昭和60年8月20日－30日

電話にて依頼。ほとんどは好意的に受けてくれる。

返事は9月16日迄とする。

昭和60年10月18日 第14回首都圏同窓会 於 新宿住友ビル スカイルーム

昭和60年11月15日 於 東京商工会議所ビル 3階 18時15分

丹呉、加藤、白井、丸山

名簿作成の進捗状況、同窓会発足の下準備について話し合う。

昭和60年11月中旬（18－20日頃）地鉾の倉又君に電話。地鉾科の名簿入手を依頼。

数日後、同名簿入手。そのコピーを白井、丸山に送る。

昭和60年12月3日（火）丸山君に電話。今年中に委員会を開き、会則などについてつめることとする。

昭和60年12月13日（金）丸山国際特許事務所 6時集合。

設立委員会：忘年会を兼ねる。世界貿易センタービル地下1F“しなの路”

出席者 数学科 丹呉建介

物理学科 加藤義雄

化学科 白井和夫、丸山幸雄

生物学科 相馬研吾

地鉾学科 倉又孝夫

会長と副会長の候補に下記二氏を決める。

会長：志賀浩二 丹呉が話を付ける。

副会長：加藤が話を付ける。

決めるべき事項

- 1) 会則
- 2) 会費
- 3) 会長、副会長
- 4) 役員
- 5) 幹事
- 6) 会場と日時

昭和61年1月22日15時 白井らと会合

3月7日12時 総会開催日 5月下旬－6月中

その前に幹事役員候補で1回打合せをする。

各学科からの出席者数の予測。

5月8日12時 東商3階 幹事会

6月21日14時30分 最終幹事会 八重洲富士やホテル ロビー

昭和61年6月27日18時 第一回理学部首都圏同窓会 神田学士会館

幹事及び受付係らは5時30分に集合。

出席者数 165 (?) 名

会長：志賀 副会長：加藤、片桐

6月30日 今井、広川両氏 監査を承諾。

7月13日12時 幹事反省検討会 NSビル1階カフェ・ド・パルク

7月25日18時 新大ビールパーティー 東天紅8階エース

8月30日2時 幹事会 第一ホテル・ロビー

9月14日12時 同窓会勉強会 明治製菓

10月17日18時 首都圏同窓会 ホテル・エドモント

昭和62年1月17日15時 幹事会 八重洲富士やホテル

昭和62年3月28日15時 幹事会 上智大学広川教室

5月9日 幹事会 (欠席)

6月13日15時 幹事会 池袋 立教大学 早福教室

昭和62年6月26日18時 幹事会 第二回理学部首都圏同窓会 私学会館

7月11日13時 幹事会 反省会

8月21日18時 新大ビールパーティー 東天紅

10月5日15時 幹事会 東商

昭和63年3月26日 幹事会 学士会館 1時

7月3日 理学部首都圏同窓会 17時

8月26日 新大ビールパーティー 上野東天紅6F

12月2日 新大同窓会 エドモント・ホテル 18時

昭和64年7月15日 理学部首都圏同窓会 学士会館

11月18日 理学部同期会 前夜祭

19日 理学部同期会 湯田上温泉 末広館

11月24日 首都圏同窓会 JR東京大丸デパート ルビーホール

平成2年1月17日 幹事会 市ヶ谷 杉山、白井、加藤

6月29日 理学部首都圏同窓会 私学会館

	10月19日	新大首都圏同窓会 世話人会 グランドヒル市ヶ谷新宿
	10月26日	新大首都圏同窓会 グランドヒル市ヶ谷新宿
	12月7日	幹事会 池袋 いなかや
平成 3年	1月26日	新大理学部同窓会準備会 新潟会館
	3月22日	物理学科同期会 トーク in 新潟
	5月11日	理学部同窓会準備委員会 ホテル湖畔
	5月14日	宮坂事務所
	6月25日	池袋西口別館 談話室“滝沢”
	7月27日	理学部同窓会準備会 信濃川会館
	8月23日	新大納涼パーティ
	10月27日	新大理学部同窓会 同祝賀会 ミナミプラザ・ロイヤルホテル
平成 4年	1月25日	新大理学部同窓会幹事会 新潟会館
	3月28日	首都圏理学部同窓会幹事会
	5月9日	幹事会 西新宿 談話室“滝沢”
	5月30日	新大理学部同窓会幹事会 新潟会館
	6月27日	幹事会 新宿 談話室“滝沢”
	7月10日	新大理学部首都圏同窓会 グランドヒル市ヶ谷
	8月20日	新大納涼パーティ 芝弥生会館
	11月20日	新大首都圏同窓会
平成 5年	3月8日	新大理学部同窓会幹事会 グランドヒル市ヶ谷本館 3F ロビー 6時30分
	3月27日	水産大学 2時
		新大理学部同窓会役員会 新潟シティーホテル 4F
	6月19日	首都圏理学部同窓会幹事会 水産大学 2時
	7月3日	首都圏理学部同窓会 芝弥生会館
	7月26日	首都圏理学部同窓会幹事会 生田 6時30分
	8月20日	新大納涼ビールパーティー 芝弥生会館 6時30分
	11月19日	新大首都圏同窓会 JR 東京レビーホール 6時30分
平成 6年	4月21日	幹事会 エステック情報ビル 22階
	6月4日	新大理学部同窓会第一回役員会 新潟会館
	7月9日	理学部首都圏同窓会 工学院大学 11F 第5会議室 懇親会 エステック情報ビル

7月28日 幹事会 エステック情報ビル アゴラ 4F
8月26日 新大納涼パーティ 国際観光会館レストラン・カウベル
11月19-20日 物理学科同期会 強羅青雲荘

本「メモ」は編集者のひとり小川 勝が加藤義雄氏から頂いていたものですが、此度、冊子に掲載することに加藤氏から了解を頂きました。

この「メモ」より、首都圏同窓会 発足後の様子だけでなく、それまでの各学科ごとの同窓会活動を「同窓会統合・一本化」の機運向上の一助になった事が窺い知れると思います。因みに、「同窓会統合・一本化」については、新潟大学理学部同窓会（平成22年12月25日）発行「創立60周年記念会員名簿」の「理学部同窓会の軌跡」（7,8頁）も参照ください。（編集者）

「首都圏同窓会の歩み」に寄せて

昭和28年 生物学科卒 相馬研吾

わが同窓会は今年で29回目の開催となります。ということは創設の頃から29年経過したわけで時の流れの速さを感じます。同窓会創設の経緯については29年も前のことなので詳しくは覚えていません。多分化学科の白井和夫氏か物理学科の加藤義雄氏から呼びかけの電話があったと思います。当時私はもちろん現役で多忙でもあったのであまり乗り気では無かったのですが、とにかく生物学科の卒業生で首都圏在住の人たちの調査をしたと思います。といっても当時手許には昭和47年度版の理学部同窓会名簿しかなかったもので、若い人たちにも応援を頼んだと思います。また同窓会には会則が必要なのでどなたかが作られた原案の検討会も何回かあったはずです。

第1回の首都圏同窓会の総会は昭和61年6月27日に学士会館で行われました。まだ会則はなく会長も決まっていなかったもので、同窓会の案内状は幹事代理としていずれも1回生の丹呉建介(数学)、加藤義雄(物理)、白井和夫(化学)、相馬研吾(生物)の4人連名でした。しかし私はその年6月7日から2ヶ月間米国に出張することになっていたもので、残念ながらその記念すべき総会には出席できませんでした。手許にある出席者名簿によると、当日は156名参加の盛会だったと思われます。最初の同窓会総会だったので首都圏に在住の卒業生の関心を集めたのでしょう。その総会で同窓会の会則は制定され、初代会長に志賀浩二氏(数学科、昭和28年卒)が選出されたと思います。初代から会長は2年の任期で数学、物理、化学、生物、地鉦の順に選出されていますが、第16回以降は手許に記録がないのでよく分かりません。

ところで、第2回総会は出席者135名で人数としては第1回と同様盛会でした。しかし出席者名簿を調べると第1回総会の出席者156名のうち第2回総会にも続けて出席した人、つまりリピーターはその半数にも及ばない62名でした。従って第2回の出席者135名のうち73名は新顔というわけです。第4回には出席者85名、第5回は74名とだんだん減少し、第7回には64名となりました。リピーターも新参加者も減少したと言うことでしょう。ですから盛会が続くためには何とかしてリピーターをつなぎ留め、かつ新規出席者を増やすことが必要です。そのためには参加者が出席して良かったなあと思うような魅力的な会にすることが重要で、ただ集まって飲み食いしながら「やあ！やあ！久しぶり」などと旧交を温めるだけではすぐに飽きてしまいます。しかし先輩、後輩、あるいは専門の違う人たちと話すことによりいろいろと新しい情報を得ることは確かです。

そこで幹事の皆さんは知恵をしばって第8回総会からセミナーを開催することになり、

5学科から一人ずつ講演者を選びそれぞれの専門とするところを話してもらうことになりました。参考までに第1回セミナーの講演者のお名前を挙げますと、宮坂幸雄氏(数学科)、今井 勇氏(物理学科)、片桐啓三氏(化学科)、廣川秀夫氏(生物学科)、杉山隆二先生(地質鉱物学科元教授)の5名の方です。その結果予想通り出席者は増えて多分80名を越えたと思われます。同様に第9回は83名、第10回は72名とセミナーの効果は明らかです。このようにして5人の講師によるセミナーは第21回の総会まで続けました。第22回以降は3人の講師となっています。3人の場合は1人あたりの持ち時間が長くなるのでより充実した話が聞けるし、質疑応答の時間もとれます。また異なる話題は3つくらいが適当でしょう。これからもこの3人体制を続けたらいいと思います。

セミナーの初期の頃は5人の講師はそれぞれの学科の代表、あるいは自然科学における五つの分野の代表という色合いが強かったかと思います。しかし日進月歩の自然科学では現在各分野の境界領域の研究や幾つかの分野を統合するような研究が盛んに行われています。幹事の 皆様にはたいへんご苦労かと思いますが、このようなことを念頭に5学科の壁にはこだわらず広くアップ トゥ デートな話題を提供下さるようお願いしています。総会の時に、あるいは出欠の返信葉書で次回にはどんな話題の話が聞きたいかアンケートをとるのも一つの方法かと思います。私は今後も支障のない限り同窓会には出席したいと思っていますし、同窓会の発展を心から願っています。

サイエンスセミナーの楽しみ

昭和28年 生物学科卒 廣川秀夫

年に一度の首都圏同窓会にセミナーを取り入れるように発案された初期の幹事に敬意の思いを申し上げます。1993年の第一回のセミナーに相馬研吾兄に促されて遺伝子についての話をさせて頂きました。かなり不消化な内容を話した気が今もしておりますが当時はDNAの塩基配列解析の花盛りでヒトDNAの全塩基配列も時間の問題と考えられていたような勢いで遺伝子の概念も急速に変転しつつありました。そんな時代に多少なりとも遺伝子の姿をお伝え出来たのであればと感じておりました。

ところで このセミナーでも小生の他に4名の方々が全く自由にそれぞれの話題で話をなさいました。事後のセミナーはこのスタイルに定着したようです。この自由な話題方式しかやり様がなかったとは思いますが結果的には長続きしただけでなく独特の雰囲気醸し出している様に思います。

この自由なそして互いに関連のない講演について皆さんはどのように受け止めておられるのでしょうか？ 自分自身を顧みれば定年前後で少し変わった様に思います。現役で在ったころは自身の研究分野に近い話に関心が強く 他の分野の話にはそれほどでもなかった様に感じます。ところが定年以降は逆にむしろ関係のない分野の話に興味を持つようになりました。

同窓会に出席の方々の構成をみると現役組が多数と思われますが皆さんの受け止め方は如何なのかと聞いて見たくになります。理学部での学問分野から離れて実社会第一線の経験談などは真に興味深く拝聴させて頂いております。しかし一方ではもともと理学部の学問研究は役立つ つまり応用研究とは縁遠いものだ とある種の偏見を持っているものですから 現実的でなく 夢のある あるいは自分の関心や本当に知りたいことに集中した話が聞けたらと思うのは欲張りでしょうか？ そこで提案ですが 毎回一学科から現職教員に講演をお願いしたら如何でしょうか？ もっとも現職の先生方がどんなお考えか知る由もありませんが...

ここ数年 第一回生の参加が次第に少なくなり ついに相馬さんと小生の二人になってしまいました。自然の成り行きといえはその通りですが寂しい限りです。出席者の顔ぶれもやや固定化しているように思われるのも残念です。同窓生数は増えているのですから何とか若手新人の参加を促すことを考えて頂きたい。魅力あるセミナーとそれを通じての

同窓生の交流が一助となることを祈ります。

同窓会の出会いと思い

昭和 36 年 化学科卒 佐藤茂司

理学部首都圏同窓会の今昔の状況をまとめて会員及卒業生の皆様に伝えて行きたいとの要望で依頼を受けましたので思い出すままに記述して見ました。

私は大学卒業後化学会社入社しました。ところが東京勤務の予定が辞令では大阪の工場勤務になり東京地区工場にいつ戻れるか交渉しましたが無理でした。そこで大学・高校卒で営業、技術、製造配属約二十名が夜行列車で大阪へ赴任しました。現在は新幹線に乗れば二時間半で行けますが当時日本とは言え文化、生活習慣の異なる異郷の土地でした。

工場には同期入社者が多くおり先輩及同期と付き合いながら社会人の一步を踏み出しました。しかし、新大卒業生は関西地区では少ない時代でありまわりは西日本地区の出身者が多くでした。望郷の念にかられ工場の上司が新潟市に二年間勤務され新潟の話題になり親近感を持ちました。更に化学科の先輩で第一回卒で故宮原氏、第八回卒で遠藤氏、第十回卒中島氏、第十一回で半田氏、山崎氏に呼びかけて大阪で二、三回懇親会を開きました。化学科卒で集まり新潟での学生時代や実験設備の少ない大学での思い出話で盛り上がった事もありました。その後仕事が忙しく機会を持てずに関西二十年、名古屋五年の工場勤務を終え卒業後二十五年を要してやっと首都圏の工場勤務になりました。関東に戻り確か第五回の理学部首都圏同窓会に同期から誘われて神保町の学士会館に参加したと思います。その後海外勤務で五年間インドネシアで生活をして来ました。帰国後この同窓会は従来と内容が異なりセミナーを行っている事を初めて知りました。参加する為東京の土地勘が少ない開催場所に行ったところセミナーが終わり懇親会のみ参加した記憶があります。

その後同期生の幹事から案内状発送のお手伝いをしながら運営の内容がわかって来ました。確か2000年頃から化学科の幹事として支援を始めた次第です。この同窓会はセミナーで講演をしていただく為、各分野で活躍されている方を捜して講演を依頼する仕事があり、化学科卒業の古い名簿を基に講師の依頼をする為会社訪問をして引受けていただいたりしました。

現在は少し予算に余裕があり新潟から大学の先生や後輩を呼ぶ事が出来る様になりました。そこでセミナーを通じて異分野の動向、新技術、知識等を吸収する事が可能になり、一方懇親会では情報交換から出会いが始まりますので是非会員の方のご出席をお願いします。最後に二〇〇八年同期でありました早福会長が急に死去されました。彼が病床時に会長代行をして欲しいとの依頼を受けました。突然の依頼で責任を感じましたが、この同窓会を皆様のご協力にて無事に運営することができました。

私が卒業したのは、就職猛暑期の 1961 年の春。新潟大学工学部出身の二人と共に富士通に入社。早々に会社の中の工学部・理学部卒業の十数人の先輩同窓生に温泉旅行に招待され大歓迎された、そんな時代でした。

一方、在学中には全くご存じなかった首都圏在住の他学科も含む何人かの大先輩の集まりにお声が掛かって馳せ参じ、一盃ご馳走になるお楽しみが時々ありました。

当時は安月給だったので、残業するか、独身寮で一盃やりながら麻雀でもやるか、外では喫茶店か赤提灯でコップ酒くらい。

先輩からのお誘いは、綺麗どころに連れて行ってもらったりするのがとてもお楽しみで・・・こうして先輩方と深～い絆が結ばれました！

そうこうしているうちに卒業生もどんどん増えてきたので、理学部の首都圏同窓会をやるうじゃないかということになりました。

まだ組織もなく、何方が会長でもなく自然発生的に各学科の大先輩が幹事役になり、第一回首都圏同窓会を八六年、神田の学士会館で開催することになりました。

私が案内を依頼された化学科は、ご案内する方々の住所録が不備ながら 48 人が参加し、全学科では何と 182 人が参加され、会場が蒸せ返るほどの大盛況でした。

これはいける！という感触でしたので、その後は毎年開催することにし、一三年で第二十八回になりました。

ところで、同窓生が毎年増えているにも関わらず、第二回同窓会まで百人を越えてた参加者が何故か急減してしまい、その後は中々増える見込みなしになってしまいました。

このままでは参加者がじり貧になる！何か打つ手はないかと、毎回私も呼ばれて反省会のあと先輩らと何回か話し合いました。

そこで私が提案したのは、一盃吞んでわいわいだけでなく、「我が理学部の卒業生諸氏は多士済々、最前線で活躍している同窓生らに時宜を得た興味深い高話をお願いする」イベントをやってはどうかということでした。面白いじゃないか！と賛同を得て、93 年第八回同窓会に「第 1 回サイエンスセミナー」を開催することになりました。

当初は思惑通り各学科から興味深いテーマが次々と寄せられ、前段でセミナーをやり、その後で懇親会をやるという他に例をみないユニークな次第の同窓会になりました。

しかし、私たちが若かった頃先輩一後輩といった浪花節的な人間関係が時代遅れになったのでしょうか。たった一日、同窓会に顔を出して親睦を温めるのも嫌なほど仲間意識

が荒んでしまったのでしょうか。来年はどんなテーマの講演が有るんだろうと期待するわくわく感が萎えてしまったのでしょうか。

最近では、理学部の同窓会名簿が完備し、首都圏で千人近くの方々に案内を送付していますが、参加者は五十～六十人程度です。返信はがきすら戻さない失礼な方も少なくありません。毎年卒業生が増えているのに参加者が増えないのがとても残念です。

同窓生のみなさん！新潟大学理学部卒業生であることにもっと誇りをもって欲しい！この同窓会に便乗した同級会や同期会を開くことにしてもいいから仲間に声を掛け合って参加され、興味深いテーマを熱弁されるセミナーの講師の方々を讃えて欲しい！そして親睦を温めるとともに絆を深め、この同窓会を益々盛り上げてください！

昔、品川駅東口には長い長い地下道があった。そこを通り抜けると閑静な通りに出る。そこを暫く歩くと東京水産大学（現東京海洋大学）である。同大学の相馬研吾教授のご配慮で、新潟大学理学部首都圏同窓会の幹事会の会場を提供して戴き何度かお邪魔した。平成の世になって間もない頃かと思う。

顧みれば、物理学科を卒業して鈴木保正、宮谷信也両教授のお蔭で東芝に入社、思いもよらず希望通り半導体技術部門に配属され、電界効果型トランジスタの開発に携わる。幸運にも N チャネル型では日本初の実用に供する製品開発に成功した。すぐ量産に入り、様々な分野で応用も広がった。当時は半導体製品開発の黎明期にあり、新製品として注目され、電子通信学会、応用物理学会等に発表し、得意になっていた。しかし良いことばかりは続かず、姫路工場半導体、半導体開発技術、製造現場、品質保証部、モトローラ社との技術提携等の仕事を経験した。不得意の部門もあり地獄も味わったが、幸いにも行く先々で良い人に恵まれ最後は美味しい酒を飲むことが出来た。そして、予想もしない半導体物流に配属され落ち込んでいた頃に加藤義雄先輩に声を掛けられ本同窓会の仲間に入れて戴いた。幹事のお手伝いも仰せつかり、加藤先輩宅にお邪魔したことも思い出される。その頃幹事会で毎年の同窓会は飲み会が主となっており、これに加えて何かできないものかとの話題が出ていた。講演を入れる案も出されたが誰に依頼するか、講演料などの問題もあり纏めきれずにいた。幸い理学部は五学科があり、その卒業生は様々な分野で活躍されているので、各学科から代表を選びその仕事に関する高話（無料で）を戴くという案が出され、ようやく纏まった。平成五年七月三日、本同窓会（芝、弥生会館）で初めて各学科代表による高話が実現した。思えば話題が出てから三年目のことであった。次の年の本同窓会（新宿、工学院大学）では、「高話」の名称は理学部であることから「サイエンスセミナー」に変えたように記憶している。言い出した自分も何かしなければと思いその次の年、平成七年の本同窓会に物理学科代表で半導体の話をした。本同窓会では加藤義雄、今井勇、杉山邦一諸先輩を始め、多くの方々にお世話になりました。すでに身罷られた方もおられる由、改めて故人のご冥福をお祈り申し上げます。

平成八年四月、一身上の都合により生まれ故郷の佐渡に帰り、地元羽茂町教育長を仰せつかり、以来八年間、後半二年余りは佐渡郡市町村教育委員会の纏め役を務めさせて戴いた。その間、平成十二年の本同窓会にはお呼び戴き、サイエンスとは程遠い佐渡の新米教育長の奮闘ぶりをお話させて戴いたように記憶している。平成十六年三月一日、市町村合併

により佐渡市が誕生し、新市の教育委員会体制を立案して市に引き継ぐと共に、同市教育委員の一人として三年ほど勤めた。会社組織を離れて見ると、同窓会での様々な話は大変参考になり、又多くの皆様との出会いは自信や心の安らぎにも繋がり、同窓会は有り難い場であった。同窓会ではお互い損得抜きで自由に話ができ、何気ない会話の中にも有用なヒントが見つかる事もあります。同窓会の果たす役割は大変大きいものがあるように思います。数年前に新潟大学全学佐渡同窓会で「佐渡の教育を考える」というシンポジウムを開催したことがあります。この時来賓でお出で戴いた新潟大学生田孝至副学長のお話によりますと、十八世紀の産業革命以降の勉強をしてもこれからの時代には役立たない、むしろ産業革命以前の様々な勉強を大学として勧めたいと言っておられました。興味深い話であります。スタンフォード大学にいる友人は、最先端の科学を学ぶ日本人の留学生が最近極度に減ったと大変心配しておりました。次の時代を担う若い人への対応も考えさせられるところです。特に現役の若い方々には、様々な分野で活躍されている人の話は大いに参考になると思います。その意味で本同窓会へ若い方々が多く入会し、情報交換の場、絆を育てる有用な場として活気ある同窓会になることを願ってやみません。最後に新潟大学理学部首都圏同窓会創立三十周年を心からお祝い申し上げますと共に、本同窓会会員各位の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

首都圏同窓会、創設30周年おめでとうございます。小冊子発刊も素晴らしいことと、思いますが同窓会に何も貢献していないものが小冊子にひとこと書くと言うことは大変なものがあります。その上、作文は不得意中の不得意なんです。これは決して威張れるものではありません。しかし書いてみますと言った以上は書かないと、企画した方々に失礼になります。ですから新潟大学の思いを思いのまま書いてみます。

そもそも新潟大学の建学の精神は何だったのでしょうか。新潟大学のホームページに大学の理念が掲げられていました。

「新潟大学は、高志（こし）の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献することを全学の目的とする」と、あります。さらにこの理念を実現するために4項目にわたって説明されていますが省略させて下さい。

私はこの文章を初めて読みました。こんな恥ずかしいことはありません。しかし、もう少し新潟大学の独自性を折り込めなかったのでしょうか。先日、十日町の雪まつりに行ってきました。今年は65回目だそうです。この継続性は目的がしっかりしていたから続いたと思います。大きな町と思って行っただのですが人口5万6000人と小さな町でした。雪像はみんな市民の手作りでした。子どもの時から雪像作りを手伝っていたら、芸術どころが高くなるのは間違いありません。

1月末に安倍首相は施政演説で「2020年を目標に、外国人留学生の受け入れ数を2倍以上の30万人へと拡大してまいります。国立の8大学では、今後3年間で外国人教員を倍増します」と述べています。新潟大学は8大学に入れる努力をどの位したのでしょ

うか。大学も破綻する時代になりました。新潟大学も先生と若い卒業生と文科省のお役人の力を借りて新しい新潟大学の理念を決めて頂きたいと思います。

これからの文章は私が在学していた時のことについて触れてみたいと思います。私が新潟大学の理学部に入学をしたのは昭和35年です。入学時に「理35-9」という背番号を頂きました。胸を弾ませて新潟大学に入学しましたが、レベルが高くて付いていけませんでした。ならば「大学卒」という肩書を貰えるだけでいいと切り替えました。それには授業を絶対に休まないと決めました。この考えは甘かったかもしれません。が1度も休まな

かったので卒業できました。

新潟大学は高台の西大畑にありました。海岸までは5、6分の所にありました。入学した時は毎日海岸に行ったものです。こんなに海に近い大学があるのでしょうか。もう一つ気分のいいことがありました。市民の皆さんが私たちを学生さんと認めてくれたことです。

当時の新潟市には専門学校や私立の大学がありませんでした。そんな目で見られれば、励みにならない筈がありません。大学1年の時、安保反対の学生運動に参加しました。安保のどこがいけないのか関係がありません。理学部には学生運動の経験がありません。4年生が中心になって自治会を作りました。私は1年生ながら執行部になりました。学生運動の「運」の字も知らないのに参加したのです。団結力を確かめるために血判状も書きました。

3年の専門科目には苦勞しました。位相空間論はさっぱり分からず白紙の答案を提出、落第を覚悟。前期の授業が終わって弥彦神社にハイキングがありました。これは先生方の計らいでした。もちろん先生たちも一緒でした。楽しかったハイキングでした。途中、位相空間論の本間先生から突然、宮坂君と話しかけられたのにはビックリ。零点の学生にも声をかけて頂き嬉しかったです。

青木先生は数学科の主任教授でしたが、一緒にソフトボールや卓球を良くやりました。ゼミの沢木先生には自宅で夕食をご馳走になりました。ゼミの打ち上げを古町の鍋茶屋で開いて頂きました。私たちは貧乏でお金はありませんでしたが食欲は旺盛でした。

卒業したのは昭和39年です。東京オリンピックがあった年です。41歳の時にはソフト会社を興しましたが苦勞の連続でした。70歳で会社を辞めてから、シルバー人材センターから駅前の自転車の整理とゴミ拾いの仕事をしています。人様のお役に立っていると思うと、こんなにやりがいのある仕事はありません。もし新潟大学に入っていなかったらどんな人生を送っていたのでしょうか。本当に新潟大学に感謝です。

箱根駅伝他 学生スポーツ観戦考

いま、これからの高等教育・大学教育は私学・私立大学に重き置かれるべきでは？

昭和 39 年 地質鉱物学科卒 篠原興弥

- 1) 今回、# 9 0 大会・箱根駅伝の 5 区を、例年のよう、箱根湯本からコースルート踏査、1 時間ほど、宮ノ下～小涌谷間の坂道カーブにロケーション…、少な目観客・さぶい中、一献傾け待つ。

トップ上位競うランナー青年たちに例えば…（きたか、来たか、チョーさん待ってたドン）、さあ服部^{※1}、ねばれ！…彼らひとりひとりじっくりという訳に…は、ゆかない、佐渡は四十九理・波のうえ…青年達、順位、中ほどから後位…多く疲労気味・苦しげラン…へ、“ねばれ、ねばれ！” …、前を、前を見て！…最後位ランへ、“ねばれ！”

^{※1} 日体大

この 5 区ランを華の 5 区と、スポーツメディア、むろん、観戦応援の老若男女達、正月のビッグなイベントに化さしめた立役者たる東洋大・栢原クン…、彼の気遣いこもった、一見苦しげ、眼光スルドク、前方見据えるランニングフォーム…ランニングシューズが坂道カーブ路面に吸いつくよう、ストライド走方、あつという間に走り抜けるそこんとこへ…“竜二！” ひと声。

この栢原クン、3 年生時（新聞記事より知った…）、小田原中継点、4 区ランの B クン（4 年生）の言、“（その大会レースで）、トップランチームと〇分以内で襷渡せば！…あとは栢原が、あいつが何とかする！…”、全幅の信頼感とそのため、他のメンバーランがどう走るべきか！チームランの構成組み立てする責にあらう指導コーチの意をランナー青年達が等価理解し、走り競えば、体現できれば（実際そうだったが）…理屈の上でも…そりゃあ強い訳だよ、おっかさん♪…。この大会では、走り去る彼のうしろ姿迫いながら…これでゴール芦ノ湖へ追いつきトップゴールする…もん…かえ？くらいの感。強かった、栢原竜二君♪

- 2) 近年、大学野球部リーグ戦：東都大リーグ（東海、日体、帝京、筑波、…、独協^{※2}、桜美林、玉川、明学、明星、…）（平塚球場ほか）中心に観戦応援…こいつ、ひとつの仕事にしている…と、箱根駅伝の成績（# 9 0）、シード校に、日体大・帝京大・大東大が入り、後に東海・城西らが順位なしていることに何とはなく、親しみ共感。首都大リーグで現在、東海・帝京の 3 チームが上位占めているから大学スポーツというもの、箱根含め、他の競技：ラグビー、バレーボールらと、派生関連し、波及効果プラス効果してゆくもよう♪ ^{※2}B リーグ校

3) 毎年6月 梅雨の季節、“日本学生陸上個人選手権大会(平塚 BMW スタジアム)(3日間)”に、全国北から南の男女アスリートたち、参集、競い合う…ここんところ、彼ら皆、在籍大学、学風背負っているから、個人選手権名乗って実質“大学対抗”のよう。ここは運営主催が矢張りしっかりしているため、レースの資料・パンフがリライアブル。トラックレース、フィールド種目、全体成績、実力、層の厚み、やらを総合、受けとる感、矢張り(この大会では)西の(西国)“中京大”中心に九州、福岡大他、東(関東・東北)の多くの大学群(やや、いくらか、筑波大の活躍)のよう。レース結果1位のデータ異なる。トラック/フィールドに展開される青年たち、男女の活躍振り、そいつ、スタンド観戦(スタートやゴール、ゴール直後の荒い息づかい…)に、飽きること無い興味・臨場感。前回の場合、女子競技を例に…、東大阪、立命館、関西、至学館らの大学や福島大、都留文大…、松山大や岩手大…と全国から参集、競い合う。これに総合感(男女)、東国・関東圏の大学生たち、アスリートの活躍振り…、当然(順序関係なく)、順天大、中大、法大、日大、早大、東海大、山梨学大、国士大…らと、挙げればいくらかでもその名挙げられてくる。この学生アスリート達のスポーツイベント…の中、“箱根”と同じ層の厚さ、強さを見せてくれる…青山学院大学。渋谷青山通りに面す(他県分散の学部ある)この都会派、あか抜けしていよう筈の学風大学が…なじょう?こげえしてたくましいのかえ??

因みに。メンタルクウォリティ高い種目:ハイジャンプ、現時点迄の女子記録(87という)、福岡大:佐藤恵さん:1m95。とてつもないレコード残す(当分更新されまい)。このひと、出身が越後新潟。恐らく現在、斯界指導者と活躍されているよう。越後のくにの民びとって、時々“個人”としての傑物(例えば、会津八一のよう)…いろんな分野に輩出する人文性プラス評価の面があります。

ここ仕上げの段(理由づけ省き)。

今、これから、大学教育なるもの、建学理念、しっかりし、そのゆえにこそ40年50年〜と経年、その理念の華、開くかのよう、学府が豊か実ってゆく姿の、例 関東圏で、この青山学院大学に見なすクチより、今これから、この倭のくに民びとの文教知の求める姿…もう国立、私立大学の時代ぢゃない。たとえ規模小さくとも建学の理念しっかり持つ私学・私立大学を、その充実を国民課題とすべきでは。

‘14 2/23 記

——G.——

くぬぎ田 Gotch

(付注;上記挙げている大学、私立大が圧倒的多数ですが、福岡大他の国公立大も当然含んでおります。)

新潟大学の他同窓会等団体との交流について

昭和 47 年 物理学科卒 後藤直樹

私の体験した範囲で、団体発足順に団体資料も参考にしながら纏めてみました。不確かな記憶もありますので、間違いはご容赦頂きご指摘願います。

(1) 全学首都圏同窓会

平成 25 年に 42 年目を迎えました。特徴的なことは、学部の枠を超えて同窓生が結集し発足したということです。新潟大学に関係した者は誰でも有資格者です。

主な活動は、次のとおりです。

- ① 二水会（毎月第 2 水曜日）：料理と酒を楽しみ、公私問わずあらゆる面で自由闊達な交流を図ろうとする会で、昭和 57 年 12 月から毎月欠かさず開催しているそうです。新宿歌舞伎町の「歌茶屋どんぐり」が会場です。
- ② 納涼パーティ（毎年 8 月下旬）：美味しいお酒を楽しみ暑さを吹き飛ばそうという趣旨の会で、昭和 62 年のスタートです。交通至便な東京医科歯科大学病院 B1 のグリル峰が会場です。
- ③ 定時総会（毎年秋）：当同窓会のメインイベントです。各学部首都圏同窓会（現在 7 学部）が持ち回りで幹事を担当します。平成 27 年は、理学部首都圏同窓会が幹事です。
- ④ 機関誌「六華」の発行（毎年 1 回）

他学部は、理学部に負けず劣らず多士済済で話題が広範囲にわたり、話を聞いているだけで刺激になり学ぶことが多く、また、再会や新たな出会いも楽しみです。是非一度参加してみてください。

(2) 理学部同窓会

平成 3 年 10 月 27 日に発足しました。会報創刊号の会長挨拶に、「ここ数年、理学部首都圏同窓会をはじめとして県内外在住の同窓生から同窓会の統合について熱いラブコールが学科同窓会に寄せられるようになり、」「各学科同窓会に分かれてから十数年経過して」再スタートした、と記されています。学科単位あるいは地域ごとに支部があり、理学部首都圏同窓会は首都圏支部となっています。平成 19 年から支部交付金の制度が始まり、我々首都圏支部では同窓会案内対象の拡大に活用しています。

主な活動は、次のとおりです。

- ① 会員名簿の発行・管理：平成 22 年、待望の理学部同窓会員名簿が発行されました。
- ② 「会報」の発行（毎年）：理学部や各支部、全学同窓会の近況等が紹介されています。
- ③ 理学部要請に基づく理学部支援事業：学生ロビー用間仕切りや理学部主催国際会議への金銭的支援等を行っています。

各学科の役員には先生方もおられるので、サイエンスセミナーの相談などもさせて頂いています。大学の独立行政法人化以降、同窓生の社会での活躍状況も大学の評価対象らしく、理学部も首都圏同窓会の活動を重視し協力的に対応して頂いています。平成 25 年の同窓会総会には工藤理学部長にご臨席頂き、大学および理学部の置かれた現状について詳細に説明して頂きました。

(3)新潟大学東京イノベーションクラブ

平成 17 年 7 月 30 日に、前年に開設された新潟大学東京事務所の活動を支援し、大学・会員相互の人的ネットワーク形成や知的イノベーションを目的として設立されました。クラブの目的に賛同する者であれば、新潟大学との関わりの有無を問わず誰でも会員になります。現在、会員数約 150 名、顧問（海外経験も含め多方面の業界・分野で活躍された／活躍中で、新潟に愛着を持ち活性化に貢献したいとの熱意を持ち、大学運営に大所高所から支援いただける方）15 名です。

主な活動は、次のとおりです。

- ① 講演会、イブニング・セミナーの開催（各々年 2 回）：講演会は、大学とクラブから講師各 1 名を選任し講演して頂くもので、専門的で尖端的な内容を分かりやすく解説して頂き、好評です。イブニング・セミナーは、若手研究者の注目研究を産学連携などに結びつけることを目的にスタートしたものです。どちらも講演だけであれば会員でなくても聴講可能ですので、ご友人お誘いの上是非一度参加してみてください。
- ② 就活希望学生支援（年 1 回）：「首都圏で就職を希望する学生と社会人の懇談会」を実施しています。大学企画就活ツアー参加学生の就活や社会人生活に関する疑問・悩みに、社会人が自分の体験を語り、学生が就活に積極的に立ち向かえるよう手助けしており、毎年好評です。参加学生は 40 人ほどで、3 分の 2 は女子学生ですが、女性社会人の割合は毎回 1～2 割といった状況です。これまで我等女性会員からも 2 名参加していただきましたが、若き後輩のために多くの女性会員の協力を期待しています。
- ③ メールマガジンの配信（毎月）：大学が行う事業の紹介、講演会の案内等

(4) 全学同窓会

平成 18 年 4 月 1 日、大学創立 57 年目にして漸く全学同窓会が発足しました。各学部同窓会から役員が出て運営されています。全学部を統合した総合力の発揮を期待します。

主な活動は、次のとおりです。

- ① 新潟大学・全学同窓会交流会（年 1 回）：平成 25 年は 10 月 26 日に講演会と懇親会が開催されました。
- ② 広報誌「雪華」の発行（年 1 回）
- ③ 雪華支援事業：会員の賛助会費を財資に、大学の発展と社会への貢献に資する学内外活動に公募型で資金支援を行うものです。応募件数は年毎に増加しており、賛助会費支払いにご協力願います。

以上

私が首都圏同窓会を知ったのは、つい2年半ほど前である。同窓会といっても余程運が良くなければ同級生など知人に会うことはないであろうとは思いつつ、その2年前に妻を亡くして心にまさにぽっかり穴があいて、何かで埋めたいという気持ちもあった。同窓会に出る人たちは、実にささやかであっても、なにがしかの境界を越えて踏み出しているのだと思う。そのような人たちによって同窓会は維持されると同時に、何がしかの心の安らぎをもらっているのだろう。だから、同窓会は無理のない、心地よいものでなければならぬだろう。

大学時代は、電車で1時間余りのところに家があったのと、すべてについて、言わば奥手だったから、毎日青春を謳歌するようなものとは程遠い、高校時代とさほど変わらないような実に地味なものだった。いきおい、大学への愛着もさほどなかった。しかし、60を過ぎて同窓会にたまたま来て、人が少ないから幹事の手伝いをしないかとお誘いを受け、幹事の皆さんとお付き合いをさせていただいていると、学年も学科の違いも超えて、卒業後40年にして新潟大学で学んだという一体感をじわじわと噛みしめることができる。人生のペースも加味されての仕業だろう。

首都圏同窓会に寄せる皆さんの思いは様々であろうけれど、多分、都会生活の渇きや心のどこかの空隙を優しく埋めるファンクションを持っているものなのだ。その意味では、もっと多くの同窓生が気楽に集い、無理のない範囲で心を通わせ、心情的に手を差し伸べあい、それぞれの人生にほんの少しであっても栄養剤となり、元氣を与えることができるように、輪が広がればと思うものである。

さて、平成25年6月29日（土）に、数えて第28回の同窓会とサイエンスセミナーが行われた。場所はこれまでのJR田町駅そばの東京工業大学キャンパス・イノベーションセンターから、初めて上野の新潟県人会館に移り、やや歴史を感じさせる建物の2階多目的ホールに、暑さの中60余名の同窓生が参集下さった。

新潟からおいで下さった工藤理学部長からの理学部の現状のご紹介に、国立学校法人としての昔とは様変わりした大学運営の難しさに驚き、また同じく新潟からご無理をお願いした生駒教授、それに卒業生の辻さん（生物 S59 卒）のご講演では、現代科学の最先端の研究に触れ、また亀原さん（化学 S45 卒）の中国での在任経験に基づく講演に興味をそそられ、非常に内容のあるセミナーとなった。多くの若い同窓生にも聞いてもらいたいものである。

その後は、総会と集合写真撮影もそそくさと、皆で会場の模様替えをして地下のレストラン「朱鷺」から首尾よく運び入れられる料理の大皿を各テーブルに並べ、会館の支配人も手伝って急ぎグラスを、ビール、ワインをと運び、まさに全員参加の手作りの懇親パーティーの様相であった。幹事の皆さんはなかなかあわただしかったと思うが、これはこれで、和やかな雰囲気を醸し出し、壁に掛けられた何枚もの県出身の政治家の油絵や新潟ゆかりの張り紙などに囲まれ、新潟弁があふれ、まさにそこは、東京に出現した「新潟」だった。

昔の、いや今も美男美女の破顔一笑のスナッフ写真が随所で生まれた。昭和36年化学学科卒業の先輩が実に7人も参加され旧交を温めておられたのには、驚き、また感激した。楽しい時間はあっという間に終わるものである。再会を誓って、あるいは2次会に、三々五々会場を後にし、めでたく総会とサイエンスセミナーは終了した。この年は、化学学科が幹事学科であったこともあり、参加者の皆さんの満足された顔に、化学学科幹事一同ほっとしたものである。次回の生物学科、頑張ってください。(了)

私はごく普通の主婦です。この会報誌にとりたてて書く様な事は何もないのでお断りしようかと思いましたが、首都圏同窓会に関っている卒業生の中には私の様な者もいる事を皆さんに知って欲しくてお引き受けしました。

大学を卒業して三十七年、就職、結婚、出産、育児とごく普通の主婦の生活をしてきました。国立大学で学ばせてもらいながら、学んだ事を生かす事もなく、何も社会の役に立っていない事を申し訳なく思っ生活して来ました。

そもそも私は幼少の頃から絵を描く事が好きで、将来は画家かデザイン関係の仕事に就こうと決めていましたが、高校三年の時先生に勧められるままに、何の目的もなく新潟大学を受験しました。運良く？受かってしまい美大に進む道は途切れてしまいました。入学したものの自分の居場所に違和感があり、退学する事も考えましたが、すぐに友達も出来、美術部に入って絵を描く事も始め、程々に楽しい大学生活を送る事となりました。劣等生でしたが、なんとか卒業した次第です。

結婚後十数年専業主婦として生活し、母校の事など忘れかけていた頃同窓会に誘われました。今さらこの年になって私の様な仕事もしていないただの主婦がサイエンスセミナーなど理解できないと思いながらも参加してみました。私には難しい内容でよく解りませんが、少しでも学生時代の気分を味わう事ができました。懇親会でも先輩方の話が聞けて、日常生活にはない刺激を受けました。それからとはとにかく毎回参加してみようと思い、今年で二十回位になると思います。その間幹事としてお手伝いをした事が少しでも母校に恩返しができたのではないかと今では勝手に思っております。



最近は好きな油絵に力を入れています。作品を出展したり、近所のカフェギャラリーに飾ってもらったりしながら発表の場を増しています。私にとっては絵を描く事が最大の自己表現であり、生きがいです。来年は私も還暦です。これからの限りある時間を有意義に過ごして行こうと考えるこの頃です。

本文は、矢口氏の意向により、新潟大学理学部同窓会誌「会報」掲載記事を転載しました。

会計から見た同窓会の歩み

昭和 60 年 地質科学科卒 栃原真与子

私は、現在理学部首都圏同窓会の会計を担当しています。そこで、今回は私の記憶している範囲にはなりますが、会計の面から同窓会の歩みを振り返ってみたいと思います。

私が初めて総会に参加したのは今から 20 年ほど前になります。その頃の同窓会の収入は、総会の参加者の会費が主たるものでした。前年度からの繰越金は 10 万円に満たず、案内状の作成費や発送費用を賄えるかどうかぎりぎりの金額でした。

そのため、参加費は発送費分を上乗せした少し高めの金額設定にせざるを得ませんでした。各科の幹事が発送費用を立て替えて総会終了後に参加費の中から精算し、余った金額を翌年に繰り越していました。ですから、総会の参加者が少ないと繰越金も減ってしまい、ちゃんと立て替え分を精算できるか、はらはらするようなまさに自転車操業でした。そして、とうとう、私の地質鉱物学科が幹事学科だった年に案内状を少し凝ったものにして経費がかかり過ぎたのと、参加者が少なめだったことが重なり、繰越金が数万円(確か 4 万円くらいだったと思いますが)という事態になってしまいました。

このままでは同窓会の会計が破たんして総会の開催も危ぶまれるということで、幹事で相談し、今までは参加者の有志の方のみからいただいていた寄付を積極的に募って、案内状の発送費くらいはそのお金で賄えるようにしようということになりました。そこで案内状に寄付をお願いする旨の一文を載せ、振込用紙を同封し、参加できない方からの寄付も受け付けられるようにしました。

おかげさまでそれからは毎年平均して 10 万円を超える寄付をいただいています。本当にありがとうございます。

皆様の寄付のおかげで、案内状の発送費も十分に確保することができるようになり、総会の参加費も発送費を上乗せせずに純粋に総会の経費を賄うだけの金額に下げることができました。寄付をいただいた方にも礼状と当日資料をお送りしています。また、案内状も 2010 年に同窓会名簿が新しく編集された後、それ以前の 800 名程度から倍近くの 1500 名弱の同窓生の方にお送りできるようになりました。

また、2007 年からは新潟大学理学部同窓会から、首都圏支部として、毎年 16 万円交付金をいただいています。この交付金も含めて有益に使おうと、それまではサイエンスセミナーの講師は首都圏の同窓生の方を中心に手弁当でお願いしていましたが、現在は新潟大学や首都圏以外の方もお招きして、交通費と宿泊費の実費ですが、お渡しできるようになりました。

20 年ほど前には毎年綱渡りのような会計で、幹事会で「お金の心配をしないようになりたい」と話していましたが、最近では毎年 40 万円程度の次年度繰越金が残せるようになりました。本当に夢のようです。これもひとえに皆様の寄付のおかげです。本当にありがとうございます。

今後は、せっかくの皆様からのご厚意を無駄にせず、同窓生のために、今回のこの「歩み」の作成等の有益な使い道を考えていきたいと思います。皆様も同窓会の活動を盛んにするアイデアがありましたらどんどん提案していただきたいと思います。

最後に同窓会の健全な運営のために、今後ともよろしくお願いします。

本同窓会の略歴

* 回：同窓会の回番、セ：サイエンスセミナーの回番

回	セ	期日	会場	参加者数
1		1986(S61)/6/27	学士会館（神田）	182
2		1987(S62)/6/26	私学会館（市ヶ谷）	134
3		1988(S63)/7/3	学士会館（神田）	87
4		1989(H1)/7/15	学士会館（神田）	85
5		1990(H2)/6/29	私学会館（市ヶ谷）	74
6		1991(H3)/7/5	グランドヒル市ヶ谷	61
7		1992(H4)/7/10	グランドヒル市ヶ谷	64
8	1	1993(H5)/7/3	芝 弥生会館	89
9	2	1994(H6)/7/9	エステック情報ビル	83
10	3	1995(H7)/7/8	芝 弥生会館	73
11	4	1996(H8)/7/13	エステック情報ビル	63
12	5	1997(H9)/7/19	エステック情報ビル	61
13	6	1998(H10)/9/26	エステック情報ビル	46
14	7	1999(H11)/7/31	エステック情報ビル	65
15	8	2000(H12)/7/22	エステック情報ビル	55
16	9	2001(H13)/7/21	エステック情報ビル	45
17	10	2002(H14)/6/29	かんぽヘルスプラザ東京	57
18	11	2003(H15)/6/21	かんぽヘルスプラザ東京	57
19	12	2004(H16)/7/3	かんぽヘルスプラザ東京	53
20	13	2005(H17)/6/25	かんぽヘルスプラザ東京	48
21	14	2006(H18)/7/8	かんぽヘルスプラザ東京	67
22	15	2007(H19)/6/30	かんぽヘルスプラザ東京	46
23	16	2008(H20)/6/28	CIC 東京	50
24	17	2009(H21)/6/20	CIC 東京	44
25	18	2010(H22)/6/26	CIC 東京	51
26	19	2011(H23)/6/25	CIC 東京	61
27	20	2012(H24)/6/23	CIC 東京	49
28	21	2013(H25)/6/29	新潟県人会館	56

CIC 東京：キャンパスイノベーションセンター東京

* 回：同窓会の回番、セ：サイエンスセミナーの回番

回	セ	期日	会場	参加者数
29	22	2014(H26)/6/28	新潟県人会館	51
30	23	2015(H27)/6/27	新潟県人会館	41
31	24	2016(H28)/6/25	新潟県人会館	54
32	25	2017(H29)/6/24	新潟県人会館	38
33	26	2018(H30)/6/23	新潟県人会館	36

CIC 東京：キャンパスイノベーションセンター東京

サイエンスセミナーの略歴

*本セミナーは第8回同窓会（1993(H5)年）より開催

回	講師	演題
1	宮坂幸雄：数	ソフト業界の現状
	今井 勇：物	単独の磁極
	片桐啓三：化	「気」は存在する
	広川秀夫：生	遺伝子をどう理解するか
	杉山隆二：元教授	資質鉱物学教室創設時の学生気質
2	寺川俊浩：地	最近の地下水に関わる環境
	志賀浩二：数	数学つれずれ
	加藤義雄：物	私と放射線との付き合い
	藤田省三：化	宇宙実験の楽しみと苦労
	吉田吉雄：教授	「褒め活かし」に生かされて
3	杉山邦一：化	陸上自衛隊における特殊武器防護体制
	千羽晋示：生	生き物とつきあう難しさ
	野田浩司：地	化石生物の消長と古環境
	宋 雄司：数	シニアマネージメントのデリバティブに対する理解
	中川哲昌：物	「半導体」今昔談話
	池田清美：理学部長	理学部の現状と将来展望
4	相馬研吾：生	植物の生命力
	平井明夫：地	最近の石油成因論と石油探査
	高橋哲夫：数	インターネットの動向について
	金澤光隆：物	加速器 ガン治療への応用
	村川恭平：化	海外の環境関連法規の動向
5	矢野 教：物	退官に寄せて
	斉藤敬三：地	リモート センシングについて
	荻野 健：化	バイオ センシングについて
	塩田清二：生	PACAP による神経細胞抑制剤とその機構
	菊池奈穂美：数	地球環境問題と ISO14001 の取組み
6	篠原興弥：地	地質的古代考
	石田健一：数	ソフトウェア開発の裏話

	今井 勇：物	虹の物理
	馬場武人：化	地球環境問題と ISO14001
	勝田公雄：生	日本のバイオベンチャー
7	平井明夫：地	永久凍土の下に眠る個体メタンを探す
	西埜 覚：数	インターネットの利用：市民と行政の共生
	金澤光隆：物	重イオンビームによるガン治療の現状
	堀越祐三：化	記録材料（トナー）の研究
	竹村公利：生	薬剤の開発段階の評価から治療効果まで
8	伊豆野泰弘：数	江差追分発祥と新潟との関係
	中川哲昌：物	細腕ふる里体験
	亀原信男：化	IT 産業を支える材料の研究動向
	信田庸二：生	生体防御とサイトカイン
	永木明世：地	土木重要構造物（Teton Dom）の決壊事例の紹介
9	新保宗史：物	粒子線用いたがん治療
	椿 秀美：化	くすりの開発と統計学
	中西 理：生	10 年後 制癌剤はどうなっているか
	安藤勝利：地	最近の水道問題
	高橋哲夫：数	何でもつながる社会
10	宮坂幸雄：数	中小企業の経営者からみた日本経済のゆくえ
	山本 正：化	化粧品の科学
	手塚郁夫：物	原子核乾板によるニュートリノ振動探索
	山本雅子：化	内分泌かく乱物質と性分化
11	杉崎光男：化	ダイオキシン類の分析と大気汚染濃度の変遷
	新保宗史：物	放射線がん治療方法の解説及び放射線治療機器品質管理 の実態と今後
	八橋 誠：数	大学生の基礎学力
	柄原真与子：地	最近の五十嵐キャンパスと地質科学科
	小河原 修：生	インフルエンザについて
12	宮崎 勲：数	地域 SI プロバイダーから見た業界動向
	斉藤 司：物	UML 適用の現場からのレポート（UML の拓く可能性の 適用時の問題点）

	大西耕二：生	生物はどのように進化してきたか?…能動進化のあり方を考える…
	久保田喜裕：環境	変動する平野と人々の暮らし…新潟平野西縁の地質と自然環境…
	椿 秀美：化	毒性学の雑記帳
13	高橋哲夫：数	2007 年問題と NPO 法人立上げ
	中村 厚：物	インターネット広告の現状について
	杉山真理子：化	より安全な化粧品の開発のために
	岡崎登志生：教	血液をしらべてわかること
	岩松 暉：地（教官）	人間と社会のための地質科学
14	岩崎匡臣：化	遺伝子増幅法 LAPM 法の原理と応用（Loop-Mediated Isothermal Amplification）
	白岩善弘：生	3 ミクロンの海洋生物の研究から地球環境を考える
	佐藤朋彦：地	社会科学の実証研究とデータアーカイブ
	樋浦卓喜：数	高校生・大学生の学力低下の背景にあるもの
	金澤光隆：物	重粒子線治療は普及期を迎えたか
15	山本直樹：生（院 48）	植物の光環境、シグナルの受容と遺伝子調節の場「核」をつなぐしくみ
	工藤久昭：化（教授）	新元素の発見
	平井明夫：地	油田・ガス田はどこにあるのか
16	三室佳有：物	理科教育の在り方…高大連携の取り組み…
	木戸一男：化	臨床試験（もし、あなたが主治医から臨床試験へのお誘いを受けたらどうしますか）
	辻 孝：生	次世代再生医療としての歯の再生
17	渡部直喜：地	地下水温と伏在活断層
	伊藤紀美子：生（准教授）	イネの開花
	藤田みさお：化	遊びは学び～子ども科学館の役割～
18	宮田 等：物（教授）	万物を作る最小単位と宇宙の始まり
	酒泉 満：生（教授）	オスとメスの作り方
	島津光夫：地（名誉教授）	理学部 いま、むかし
19	竹内照雄：数	公開鍵暗号と数論

	金澤光隆：物	重粒子線治療の現状について
	杉山真理子：化	化粧品による皮膚障害とパッチテスト
20	大原 謙一：物（教授）	宇宙を測る ～宇宙物理学の最前線～
	土屋 真知子：化	労働安全衛生法の歩みと伴に ～職場環境改善指導で生かした理科系女子力～
	風岡 修：地	地震時の液状化 ～流動化・地波現象とそのメカニズム～
21	工藤久昭：物（理学部長）	新潟大学理学部の現状と今後
	生駒忠昭：（教授）	太陽電池を電子スピンの目で視ると～光と分子が演じるドラマ
	亀原伸男：化	電子部材の品質向上からみた中国事情
	辻 孝：生	臓器は再生できるか？ー臓器再生医療システムの実現を目指して
22	仲川純子：佐渡いきもの語り研究所理事長	人とトキが共に暮らす島
	林八寿子：自（准教授）	細胞を観る
	渡邊敏明：生	ビオチンの栄養学的役割と最近の話題
23	福岡 浩：地（教授）	地盤災害について
	松沢澄江：化	昔の理系女子のボランティア活動
24	田中 環：数（教授）	凸解析学と最適化が果たす役割
	小河原 修：生	ワクチン（最近の話題）
25	家富 洋：化（教授）	物理学の新展開 ―経済物理学―
	風岡 修：地	黒湯のルーツを探る（古関東深海盆の旅）
26	俣野 善博：化（教授）	元素が彩る有機化学 ―合成から応用まで―
	松井 猛：化	理学的思考で工学を生きる

あとがき

本冊子は小根山一郎 (S28 年化学)、小川 勝 (S32 年化学) 両氏からの発案があり、幹事会に諮ったところ幹事の皆さんの賛同を得て編纂することになりました。2013 (H25) 年夏に企画し、同年末に本同窓会の草創の頃、同窓会への思い、その後の活動が分かる内容を期待して、編集者の独断で執筆者に投稿を依頼しました。執筆者の皆様には快くお引き受け頂き、原稿を予定通り届けてくださいました。この場を借りて、お礼申し上げますと共に心より感謝いたします。

編集は全体構成に留め、縦書きを横書きに、カンマ・ピリオドを句読点にさせて頂いた以外は原文のままとすることに努めました。

原稿がまとまった段階で全体を通して読むと、我が同窓会が大変多くの皆様の思いとご尽力により、ここまで来たのだなと感慨深いものがあります。

編集者 小川 勝 (S32 年 化学)、高橋哲夫 (S42 年 数学)



発行日 2014年6月28日

発行者 新潟大学理学部首都圏同窓会

(非売品) 本誌の内容を許可なく複写・転用することを禁じます。